広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力を育むために

令和２年 11 月
広島県教育委員会

変化の激しいこれからの社会では，子供たちが自ら考え，自分たちの答えを導き出していく力を学んでいくことが不可欠であり，自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくことが大切です。

これまで本県で取り組んできている「学びの変革」を実践することによって，「**自己を認識する力**」，「**自分の人生を選択する力**」，「**表現する力**」が身に付いてくるものと考えています。

広島県教育委員会では，「**広島県の 15 歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力**」としてこれらの力を設定し，公立高等学校入学者選抜の「**自己表現**」において，どのくらい身に付いているのかを評価することとしています。

これらの力は，中学校３年生で突然身に付くものではありません。小学校段階から（強いて言えば乳幼児期から），自分の考えをしっかり持たせ，先生や友達に心を開いて何でも話すこと（自己開示）ができる環境の中で，**意図的・計画的**に育んでいきましょう。一番大切なことは自己開示できる安全・安心な環境と信頼関係です。

このリーフレットでは，それぞれの力をどの場面で育てることができるのか，各中学校で考えるための参考として例示しています。

- 自己を認識する力
- 自分の人生を選択する力
- 表現する力

「キャリア教育」の視点で

認識する力

○　行事や普段の生活の中で，生徒の夢の実現に向けた「心に寄り添った進路指導」を心掛け，生徒の自己肯定感を伸ばしていく。

○　産業界の外部講師による「出前授業」を実施する等，地域社会や企業でも「学校での学び」が活用されていることを生徒が実感できる機会を設ける。

○　職場体験学習では，リーフレット等により，受入れ先の企業・事業所等の方と生徒に身に付けさせたい資質・能力を共有し，企業・事業所等の社会的な使命等を伝えてもらえるように連携する。

選択する力

○　自ら職業調べをしたり，高校訪問等をしたりする等，進路の選択に係る情報について，実際に自分で確かめるよう働きかける。

○　「私のキャリアノート」等を活用して，学校，家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て，学んだことを振り返りながら，新たな学習や生活への意欲につなげたり，将来の生き方を考えたりする活動を行う。

表現する力

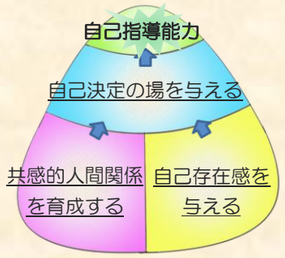
○　職場体験学習の受入れ先の企業・事業所等の方に面接官をお願いして面接練習を実施する等，見知らぬ大人（社会で活躍する教職員以外の職業人）の前で自分の考えを堂々と述べる機会を，意図的・計画的に設ける。

「生徒指導の三機能」を生かして

認識する力　選択する力　表現する力

○　教師と生徒及び生徒間の信頼関係を深め，安全・安心な環境づくりを行っていくために，様々な教育活動において生徒指導の三機能を生かす。

○　自己実現を図るために，「共感的人間関係を育成する」，「自己存在感を与える」（信頼関係）をベースに，「自己決定の場を与える」ことを通して，自己指導能力を育成する。



「教科等の授業」の場面で

認識する力　選択する力　表現する力

○　生徒が，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ，「深い学び」に向かうよう，授業の中の「問い」を見直したり，パフォーマンス課題を設定したりする等，単元計画を改善する。

○　「課題発見・解決学習」をはじめとした，生徒の「主体的な学び（学習者基点の能動的な深い学び）」を促す授業改善に組織的に取り組む。

○　総合的な学習の時間では，探究的な学習の過程の「課題の設定」において，例えば，実際の体験活動を通して考えさせる等，生徒にとって「自分ごと」になるように課題を設定させる（課題の解決を通して，自己の生き方や将来について考え，自分のよさや可能性に気付いていくことが重要）。

認識する力

○　学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の改善を進める。例えば，レポートの作成，発表，作品の制作等の多様な活動を取り入れたり，それらを集めたポートフォリオを活用したりする等，自分の学習してきたことや身に付けた学び方を自己評価し，さらに自分の学習方法を改善していくサイクルを取り入れる。

○　ライフプランニングの視点で，生徒自身が，多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用し，自分の生き方を考える機会を設ける。（例）技術・家庭（家庭分野）…自らの衣食住，家庭生活，消費生活の在り方について考える。

選択する力

○　発展的な学習場面で，「あなたはどうしたいのか」と常に問いかけ，自己の学習進度や興味・関心に応じて，学習内容等を選択させる。（例）国語…教科書教材での学びを活かし，自分で選んだ他の作品を味わう。数学…習熟のために利用する問題等の教材を，自ら選択し，組み合わせて利用する。

表現する力

○　単元の確認テストや定期テストにおいて，複数の資料から情報を読み取り，自分の考えを表現する等の記述式の問題を出題する。

○　教師自身が，日頃から，正しい言葉を使って簡潔に分かりやすく話し，生徒に対しても，目的や相手に応じて適切に話したり，書いたりするよう指導する。

○　各教科等の特質に応じた言語活動を充実させ，表現の力を計画的に育成する。（例）社会…社会での出来事等に対して，地図やグラフ等を根拠や理由にして自らの考えをまとめ，資料を活用して説明する。理科…自らが立てた仮説を確かめるための実験方法や実験結果についての考察を友達に説明する。音楽（鑑賞領域）…「知覚したこと」と「感受したこと」を関わらせて，自分なりに評価やその根拠を述べる。

○　図書館リニューアルの取組等を参考に，学校図書館の環境整備を行うとともに，主体的な読書活動が充実するよう生徒会行事（ブックトークやビブリオバトル等）を工夫し，読書に親しむ学校文化をつくる。

「家庭学習の課題の提示」の場面で

認識する力　選択する力

○　授業以外の場面においても，学びの主体は子供たちであるという「学習者基点」の意識をもって教育活動を推進する。

○　一つのアプローチが，必ずしも全ての生徒に効果的であるとは限らない。家庭学習の内容等を担当教員等が一方的に決定し指示するのではなく，

例えば，生徒自身が，

- 家庭学習の内容と量
- 学習方法や提出方法
- 提出期限　等

を設定する機会を設ける。

それぞれの力を
身に付けさせるためには，

何でも話すことができ，
相談することができる（自己開示）
安全・安心な環境が欠かせません。